

将来子どものためになる！

おこづかい教育 5つのポイント



3人の男の子を育てるファイナンシャルプランナー
唐澤 千恵美

更新日：2019.3.1

はじめに

第1章 おかねについて聞かれたら

- ・ おかねについて聞かれたら
- ・ 子どもに伝えたいポイント

第2章 買って買って攻撃をかわすコツ

- ・ 買って買ってをかわすコツ
- ・ 段階を踏みましょう

第3章 おこづかい教育5つのポイント

- ・ 金銭感覚を育てるおこづかい教育5つのポイント
- ・ 人のためにもお金を使う

ぼくとおかね

第4章 はじめてみますか？おこづかい教育

- ・ おこづかいはいつからはじめたら効果的？
- ・ お子さんの年齢に応じたおこづかい教育のはじめ方

第5章 唐澤さんちのおこづかい

- ・ ニーズとウォンツの組み合わせが大切
- ・ お手伝いとお約束
- ・ お年玉と特別おこづかい

参考：小学生のおこづかいの目安

おわりに

著者プロフィール

さいごに

はじめに

あなたは、お子さんが25歳になった時、どんな大人になっていて欲しいと願っていますか？私には現在11歳、9歳、3歳の息子3人がおります。お金に興味深々で、毎日様々な疑問をぶつけてきます。そんな彼らが大人になった時、私は「お金に振り回されない人になっていて欲しい」と願っています。

ファイナンシャルプランナーという仕事をする中で、保険の見直しや住宅ローン相談でお客様とお話をする際に、小さなお子さんがいらっしゃる場合には、「おこづかい」の話題になることがよくあります。みなさん、「金銭的にも精神的にも自立した大人になって欲しい」とおっしゃる方がほとんどです。この小冊子を手にとって下さったあなたも同じ思いではないでしょうか？

では、その為には何をすればよいのでしょうか。私は、その答えはおこづかい教育にあると考えます。おこづかい教育の目的は子供をお金持ちにすることではなく、お金の使い方を通して自己管理、自己責任を学び、自立を促すことです。

今回は、私も実践中のおこづかいのあげかたをポイントでまとめました。お子さんにあったやり方で、おこづかい教育のヒントにしてくださいね。

第1章

お金について聞かれたら

子どもは疑問に思ったことをすぐに聞いてきますよね。なんとなくよくわからないまま理解している大人の自分が答えに困ることは多々あります。

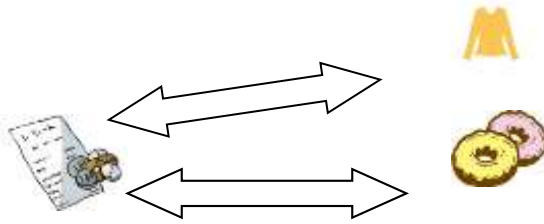
長男が4歳のころ、「お母さん、お金ってなに？」と聞かれました。
ファイナンシャルプランナーとして活動を始め、こどもの金銭教育も活動の柱にしていきたいと考えていた私は「ついにこの質問がきたか♪」と自分自身が金銭教育を実践できる時期になったのでとても嬉しくなりました。

「お金ってなに？」誰でも疑問に思うことですが、とても大事です。
ひと言で言うと、「欲しいものを手に入れたり、夢を実現するための道具」ですが、お子さんに伝えたいポイントをいくつか挙げてみましょう。

子どもに伝えたいポイント

◎お金には・・・

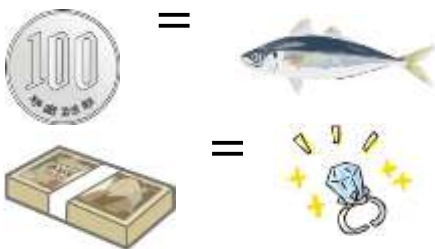
①交換するはたらき



②貯めておくはたらき



③価値をきめるはたらき



があります。

◎でも・・・お金で買えない大切なものがたくさんある。

家族、友達、健康、幸せなど・・・。

◎お金はとても便利だけど、あくまで道具にしかすぎません。

お金を使って何をすることが大切で、お金が人生の目的にならないようにしましょう。

第2章

買って買ってをかわすコツ

長男が2歳の頃、買い物に行けば必ず「買って買って攻撃」を受ける時期がありました。年の瀬、あるスーパーで30分程ひっくり返って泣いて、わめき散らした事もありました。汽車キャラクターの形をしたお菓子の入った缶が欲しくなったようです。私は次男を抱え、少し離れて様子を見ていましたが、他の方が心配していたので、仕方なく暴れる長男も抱えてスーパーを後にしました。こんなに暴れても、なぜお菓子を買わなかったのか？

答えは簡単です。長男が欲しがると直前に会計を済ませてしまった為に、1250円の商品を買うだけのお金がお財布になかったからです。**現金決済のみ**のスーパーでしたから、クレジットカードも電子マネーも使えません。

車に乗りこむところで、ある紳士が「お母さん、甘やかさないで偉かったよ。」と声をかけてきてくれました。どうやら一部始終をみていたようです。「実はお金が足りなかっただけなのです・・・。」とは言えずに、お礼を言って帰宅しましたが、この一件で、親も**「買ってあげたい気持ち」を我慢**することを学びました。

買って買って攻撃には 段階を踏んで対処していきましょう

お話が分かる3歳頃になり「買って買って攻撃」を受けた場合、①お店で決まった額（50円～100円）を渡し、「その額の中で好きなものを買っていいよ。」と声をかけてみましょう。ポイントは、1個ではなく、金額で区切ることと、「今日買ったから次回は買わないよ。」と**毎回買ってあげる訳ではない**ことを伝えます。金額の目安はひと月に200円～300円です。小学生になったら、渡すおこづかいの金額以上にならないようにしましょう。

②自分の財布を持たせて、①のお金を入れてあげてから、レジで支払います。おつりもお財布に入れましょう。自分のお財布から払うと、「お金がなくなる」ことを体感します。欲しいものをその都度買ってもらっていると、お金がなくなる事を体験することができません。自分の欲しいものを自分の財布から買う⇒お金がなくなる⇒なくなったらもう買えない・・・この体験を繰り返すことが大切です。

③1回50円～100円ずつの買い物に慣れたら、貯めることも教えてあげましょう。「今日買うのを我慢したら次に200円の物が買えるよ。」と言うと、お金を貯めることで買う物の選択肢が広がることが分かってきます。

金銭感覚を育てる「おこづかい教育5つのポイント」

1：お金は親が働いているからもらえる

2：お金は使ったらなくなる

3：優先順位をつけて使う

4：貯金の習慣をつける

5：お金で買えないものもある！



1.お金は親が働いているからもらえる

長男が7歳の頃、こんな質問をしてみました。

(母) 「お金ってどこからくるのかな？」

(子) 「銀行にきまってるじゃん！」

(母) 「じゃあ、銀行にはどこからお金がくるの？」

(子) 「お父さんとお母さんがお仕事した会社からもらえるんでしょ。銀行にはいっぱいお金があるんだよね！」

(母) 「うーん、銀行からは、預けている分や、お仕事したお給料分しかお金は引き出せないよ。銀行は皆のお金を預かっているだけだから、全部がおうちのお金ではないの。」 どうやら息子は、銀行には親のお金がいくらでもあると思っていたようです。

2：お金は使ったらなくなる

単純ですが、最も大切です。お金は使ったらなくなります。なくなったらもう欲しいものは買えません。子どもには、おこづかいを通してこのような経験を**たくさんして欲しい**と思います。「なくなれば、またもらえる。」と考えると、子どもはお金を大切に使いませんし、お金で買ったものも大切にしません。

3：優先順位をつけて使う

限られた額のお金を上手に使うためには、優先順位をつけて考えた上で「買うか、買わないか。」を決めることが大切です。優先順位が低いものは、少しでも欲しくても我慢するようにお話してみてください。

「ガチャガチャやりたい！でも・・・今買ったら学校で使うノートが買えなくなるかも・・・。」と少し先のことまで考える習慣がつきます。

4：貯金の習慣をつける

若者の中には、あればあるだけのお金を使ってしまい、足りなくなれば借金をすることも平気、という人が増えているようです。お金のやりくりが上手な大人になる為には、子どもには将来を考えて貯金することを教えましょう。お年玉や祖父母からもらったおこづかい等、大きなお金が入ったらまず「いくら貯金しようかな？」と子どもが考えられるように導きましょう。

5：お金では買えないものもある！

子どもたちにぜひ心に留めておいて欲しいことは、「**お金よりも大切なものがたくさんあること。**」です。お手伝いをしたらお母さんやお父さん、おばあちゃんやおじいちゃんが喜んでくれた、電車でお年寄りに席を譲って「ありがとう」と言われた、など。**人に喜んでもらった時の気持ちを大切に**しましょう。こういう気持ちは、お金で買うことはできませんよね。この気持ちを通して、「お手伝い=お金」という発想にならないようにしたいものです。

☆人の為にもお金を使う☆

おこづかいは、自分が欲しいものを買うだけの為に使うではありません。ユニセフ募金や赤い羽根共同募金、また震災等の自然災害が起きた時は、おこづかいから募金するように話をしてみましよう。我が家は子どもと話し合った上で、今現在はおこづかいの10%を、募金用としてお財布とは別の箱に入れていきます。金額は少なくともそれで「助かる人がいる、人のためになる使い方がある」ことを知り、人のためにお金を使うことで「おもいやり」の心が育って欲しいですね。先日は小学校で赤い羽根募金があるということで、募金用の箱から出した100円を握りしめ、登校していきました。その時にもらった赤い羽根を、「**オレのキモチ**」と、とても大切にしています

ぼくとお金

「ちいちゃんは、いつもオケラだから・・・」私が小さい頃、周りからよく言われていました。オケラって何か分かりますか？オケラとは、**所持金が全くない**事を意味する俗語です。たしかにお金はすぐに使ってしまう、貯金なんてもちろんありませんでした。

生きていく上で、お金の存在は欠かせません。お金の話はタブーだった時代から大きく変わり、現在ではあらゆる面で、もちろんお金に関しても自己責任が問われています。

自分の子供が将来、自己破産やローン地獄に陥らない為にも、早い時期から家庭でお金の大切さを伝えてあげたいと常々考えています。

6歳までのお子さんには

この年代のお子さんには「お金の存在」を伝えます

お金があると欲しいものが買える



お金を使うとなくなる



お金がないと欲しいものが買えない



良く考えて買わなければいけない

お金では買えない大切なもの、優しさや喜びも伝えたいですね

ぼくとお金

長男が年長の頃、恐竜の図鑑（2100円）を欲しがりました。せっかくですから、

「お金を貯めて買う」ということに挑戦し、

「お金がなくなる」ことを体験させてみました。

欲しい物があっても、「恐竜の図鑑が買えなくなる・・・。」と我慢し、数カ月後、彼の貯金箱には2500円貯まりました。「これで買えるかな？」と一緒にお金を確認し、本屋に向かいました。色んな本に目移りしながら、最終的に彼が持ってきた本は・・・当初の恐竜の図鑑ではなく、「ドラ○もんふしぎのサイエンス～恐竜編～¥1,890」でした。「本当にこれでいいの？これ買っちゃったら恐竜の図鑑はもう買えないよ？」と諭すも、「これも恐竜の本だし。」と彼の気持ちは揺るぎません。

今回は「お金を貯めて欲しい物を買う」「お金がなくなる」の2点を体験させました。レジでお金を渡す満足そうな姿は私にとって忘れられません。お金をどう使うかを子どもが考え、それを見守る親としても、良い経験になりました。

第4章

おこづかいはいつからはじめたら効果的？

「何歳になったら始めようかな・・・？」と悩むよりは、お子さんがお金に興味を持ち始めたな、とご両親が感じた時がはじめ時です。何歳から、何年生から、と始めるタイミングはさほど重要ではなく、日々一緒に生活をするご両親のおこづかいに対する考え方が一致している事が大切です。片方が一生懸命おこづかい教育に取り組んでいても、片方が欲しい物をやすやすと買い与えていては、意味がありません。ぜひおこづかいを考えるときにはご家族で一度お話することをお勧めします。

お子さんの年齢に応じたおこづかい教育のはじめ方

先ほどは「お子さんがお金に興味を持った時がスタートのタイミング。」とお話しました。3歳以上のお子さまの場合、お金に興味を示したら、定額制のおこづかいではなく、買い物の時、自分のお財布に50円～100円を入れてあげて、お金は使ったらなくなることを覚える程度で良いでしょう。

自己管理ができる小学1年生～2年生は、おこづかい教育を始めるのによい時期だと言われています。親の目が届く間は、ぜひ沢山失敗して下さい。

失敗を繰り返して、ある程度のやりくりができるようになると、行動範囲が広がる高学年になった時にも安心です。小学校入学時は「おこづかい教育」をスタートさせる目安と言われます。本人も、グンと成長した気持ちで張り切っていることでしょう。

ないと困るもの（ニーズ）である文房具等は最初に一式揃えてあげて、ノートやえんぴつ、消しゴムなどは「なくなったらおこづかいから買おうね。大切に使ってね。」と言ってあげましょう。

1年生ではまだ早い、と感じる場合は、2年生や3年生以降から始めてももちろん問題ありません。子どもの成長や性格、家庭環境や考え方に違いがあるのは当然です。お子さんの様子をみながら「そろそろ・・・。」と思うようになった時が、絶好のタイミングに間違いないでしょう。子どもは大人よりも物覚えが良いので、親が一貫性のあるおこづかい教育を始めると、金銭感覚は、しっかりと養われていきます。

もうひとつ大切なことは、親が一方向的に決めて始めるのではなく、子どもがおこづかい制を理解し、「やる」と言った上で始めることです。お子さんとよく話し合った上で、最終的には「自分で決めた」と思わせることが大切です。

第5章 ニーズとウォンツの組み合わせが大切

ニーズとウォンツをご存じですか？私たちの日々の暮らしでも、こちらの2つが大きく占めています。ニーズとは・・・必要なもの。ウォンツとは・・・必要ではないけれど、欲しいもの。我が家では、おこづかいは好きなものに全て使ってしまったもいい、というルールではなく、ニーズとウォンツを含めた金額のおこづかいです。

長男が7歳（5歳次男も同じ）の時

ニーズ：えんぴつ、消しゴム、ノートなどがなくなった場合に使う200円

ウォンツ：ガチャガチャ、マンガ、カードや余計なお菓子に使う200円

貯金：貯金箱に50円

募金：募金用貯金箱に50円

合計500円を100円玉4枚と50円玉2枚（もしくは10円玉も混ぜて）毎月25日（私が忘れていて、せかされますが・・・）に渡します。

ニーズは毎月余るので、貯金にまわっています。外出先で、お財布がないけれどガチャガチャが欲しかった場合、「100円ちょうだい」と言われましたが、「はいよ。おうちに帰ったらおこづかいから返してね。」と言うと、それ程欲しい物でなければ、「やっ

ぱり、いいや。」と諦めることもあります。もちろん、どうしても欲しいから買う！こともあります。次男が5歳の時、どうしても欲しくて駄々をこねていたら、長男が私に代わって「それ欲しいなら、おこづかいで買ってよね！」とお説教していることがありました。

お手伝いとお約束

おこづかい制の話をした時に、お手伝いも一生懸命お願いね、とお約束をしました。食後の食器を下げる、お風呂洗いのお手伝いや、お買い物で荷物を一緒に持ってくれること、等。家族の一員として役割を果たしているからこそ、我が家ではおこづかいをもらえる、ということを説明しました。ですので、お手伝いの都度お金をあげる、または成績がよかったらお金をあげることは、あまり感心しません。（もちろんそれがご家庭の方針であれば否定はしません。）お手伝いは本来、「お金をもらえなくてもすべき家族の役割」です。お金を稼ぐことは簡単ではありません。働いて、外からお金をもらおうということが稼ぐことです。よって、祖父母の家に遊びに行き、草むしりのお手伝いを頑張ったからおこづかいがもらえた、という場合は喜んで受け取っても良いと考えます。

日々のお手伝いや、ちょっと頑張ってくれて大助かりだった場合、お金ではなく、喜びを表現し、全力でほめてあげるといいな、と思います。

お年玉と特別おこづかい

毎月のおこづかいの他に、子どもがお金を受け取る機会として、我が家ではお年玉と、特別おこづかいがあります。

お年玉については、昨年まではもらった金額の中から、1000円まで好きなものを買っても良い、とじていましたが、今年のお年玉は、二人とも全額貯金することを希望してきました。親の管理する通帳の他に、子どもが出し入れできる口座を1つ作り入金すると、とても喜んでいました。利息がついたころ、「お金の赤ちゃん」として、お金がお金を産む仕組みを通帳で確認します。（低金利下の中、普通預金ではお金の赤ちゃんがちっとも生まれません・・・）

特別おこづかいは、年間の各種イベント時に登場します。夏祭りに祖父母から頂く特別おこづかいについては、「その中から貯金する？」と声はかけますが、全て子どもたちの使い方に任せます。遠方に出かけたり、テーマパークに行く際は、「特別おこづかい、〇〇円にしようと思うけど、どうかな？」と聞いて決めます。現地に行くと、欲しい物とにらめっこ。「これ買ったら、あれ買えない。」と悩む息子に付き合うのも楽しいものです。

ご家庭でのおこづかい教育は、将来上手にお金と付き合う為にとってもいいトレーニングになります。**子どものうちに、失敗を繰り返すことが大切です。**

少しずつ、お子さんの様子をみながら、はじめてみてください。

小学生のおこづかいの目安

1年生：200～300円・・・ノート、えんぴつ、けしごむ、
下敷き等、入学時に揃えたものがなくなったら自分で買う。

2年生：300～500円・・・ふでばこ、色鉛筆、絵具や
半紙などの補充など。

3年生：400～600円・・・文房具に加えて、本やお友達へ
のプレゼント代など。

4年生：500～1000円・・・ジュースやお友達と出かける
際の運賃や昼食代など。

5年生：600～1200円・・・お友達との交際費は一切含む。

6年生：800～1500円・・・塾や習い事の交通費・飲食代、
服に好みがでてくる頃。衣類の一部をまかせてみることも。

お子さんの様子を見ながらどこまで任せられるかを
考えた上で、お子さんと話し合っ
て金額を決めることが、
とても大切です。

おわりに

おこづかい教育をはじめるとあたり、「渡したお金は全部使ってしまうのではないか？」と心配になることがあると思います。そこは、ぜひ口を出さずに見守って下さい。なぜなら、なくなるという経験が大切なのです。

長男が小1になった4月、試しに500円をポンと渡してみました。すると、「うおっしゃー！マンガ買う！」と一瞬でなくなってしまいました。お子さんのペースに寄り添ってあげられるのは、ご家族だけです。何よりも「信頼しているよ。」という親の態度が大切です。お金をただ渡すだけでなく、親子一緒におこづかい教育に取り組んで下さいね。

お読みいただいた皆様へ

今回は、「将来子どものためになる！おこづかい教育5つのポイント」と題して、ご家庭でのおこづかいを通した金銭教育のポイントをまとめました。

私自身、第1子が小学生の為、おこづかい教育に

現在進行形で向き合っておりますので、何が正解なのか実はまだわかりません。しかし、なにも考えずに大人へと成長してしまうのは、ものすごくもったいないと思うのです。日々、いろいろな方法を試してみても、失敗と成功の連続です。

親の目が届く範囲であれば、失敗を最小限にとどめたり、思いっきり失敗させてあげることもできます。最初からやりくり上手な子どもは、ほんの少数です。できなくて当たり前、欲に負けるのは当たり前と考えると、お子さんが20歳位になるまでの間にすこしずつお金との付き合い方が上手になること、親御さんたちもお子さんに寄り添って、よりよいやり方を見つけ出していけることを願っています。

この機会に、手にとって頂き、大切な時間を割いてお読み下さいまして、本当にありがとうございました。おこづかいを通して、あなたとお子さまにとってよりよい体験に沢山出会い、お金の面でも人生が豊かになりますよう、心から願っております。

唐澤 千恵美

先日、信濃毎日新聞に登場しました。別紙ご覧下さい。

育ち盛りの男の子3人のママ 唐澤千恵美です



学 校

聖十字幼稚園（年少）
本郷南幼稚園（年中、年長）
松本市立旭町小学校
松本市立旭町中学校
長野県立松本深志高等学校
明治学院大学経済学部経営学科
（Fiesta Tennis Mates テニスサークルです）
Travel Training Career Centre,
Canada ,Tronto (Travel and
Tourism 専攻)



唐澤 千恵美（からさわちえみ）

- 1980年4月2日生まれ
- 血液型：A
- 進化型どうぶつ占い
：足腰の強いチータ
- 長野県塩尻市大門桔梗町在住
- 長野県松本市横田出身
- 建築資材業の父と西洋陶芸家の母
のもとに三女として生まれる



著 書

- 「誰か教えて欲しかった！家計を見直す5つのポイント」
- 「失敗する前に読む！自分に合った学資準備方法」
- 「将来子どものためになる！おこづかい教育5つのポイント」
- 「私が一番輝ける年収はいくら？～3つの壁」

職 歴

「仕事や旅行で海外に行く人を日本から応援したい」という思いで海外渡航者向けの携帯電話レンタルの先駆けであった株式会社テレコムスクエアに入社し、個人・法人向けの携帯電話を成田・羽田空港カウンターにて確実に受け渡しする為のオペレーション業務を担当していました。

結婚を機に何か家計に役立つ勉強をしようと、当時話題だった国家資格であるファイナンシャルプランニング技能士を取得しました。自宅が近かった損保ジャパン情報サービス(株)に転職し、家庭との両立に取り組んでいましたが、夫と「子どもは田舎で育てよう！」と話した結果、長男出産を機に塩尻市にUターンをしました。子育てサークルを立ち上げる等のママ活動に没頭しながら、次男出産後に外資系保険会社代理店として独立しました。その6年後、三男出産を経て乗合代理店に移籍し、3人の男の子を育てるファイナンシャルプランナーとして、お母さん向けの小冊子の執筆や、おこづかいゲームの講師など、「お母さんと子ども」のための情報を発信しています。

理 念

息子たちがすくすくと成長してくれて大変嬉しい限りですが、最近の食費が3年前の倍になりました。

家計を預かり、やりくりする自分自身の日々の経験を活かし、「家計の埋蔵金を見つけるプロ」として、住宅ローン・保険見直し・年金など家計に関わるコンサルティングや小冊子の執筆、セミナー講師等各方面で活動しています。

「緊急じゃないけれど、重要なこと、私に相談すればもう悩まなくていい。」を理念とし、相談者の心もお財布の負担も軽くなり、余裕資金が生まれて豊かな生活が送れることを心から望んでいます。

性 格

●超がつくほどの楽道家。海なし県育ちながら、モットーは大好きな沖縄の「なんくるないさー。（なんとかなるさー。）」

●細かいことは気にしない。ただ、気になったことは徹底的に調べます。

●とにかく褒めます。息子達に対しては、いかに「その気」にさせるかが母親としての最重要課題だと思っているので、日々言い方・やり方を実験&研究しています。



趣 味

●スキマ時間に信州スカイパークで気持ちをリフレッシュ！時間が合えば、F D Aの飛行機が離発着する瞬間が最高です。10色の機体のうち、今日は何色かな？と当たると嬉しいです。世界を回って、一番好きな場所を故郷で見つけました。



●読書。好きな作家は有村浩、星新一、三島由紀夫、芥川龍之介、東野圭吾、糸井重里、村上春樹、沢村 耕太郎、俵万智、吉本ばなな、さくらももこ、高野優など純文学から爆笑エッセイ、マンガまで多数。

●りんごジュースや味噌、納豆や漬物などを手作りします。



●冒険。学生時代はバックパッカーとして世界25カ国への渡航経験有。一番好きな国は、新婚旅行先にも選んだ、タイ。二番目はギリシャ。カレーは好きだがインドは苦手。スキューバダイビングのライセンスと、スカイダイビングの経験もあるので、空からも海の中へも飛び込みます。国内では京都の伏見稻荷の鳥居のトンネルと石垣島が大好きです。



さいごに

将来子どものためになる！

おこづかい教育5つのポイントのPDFをダウンロードして頂き、本当にありがとうございました。

あなたがお子さまと過ごす大切な時間の中で、ひとつでも参考になることがありましたら幸いです。しかし、実際におこづかいを取り入れたとき、分からないことや、みんなはどうやっているの？と思うことは少なくないと思います。

ー無料PDFをダウンロードして下さった方への特典ー

おこづかいラボでは、月1回程度「おこづかい」についての情報を発信しております。今回無料PDFをお申込み頂いたメールアドレスに今後配信して参ります。あなたとお子さまにとって、必要ないと思う時期がきましたらご自由に解除していただけます。

そのほか、私のライフワークとしている

「住宅ローンの見直し」「保険の見直し」「余裕資金を増やす」という“家計によく効く！”テーマも取り上げています。

- ①知らないだけで損をしている保険のはなし
 - ②〇〇と言うだけで、こんなにお金が節約できますよ！
 - ③お母さん（お父さん）のおこづかいを〇〇で増やしましょう。
- 上記のような内容で配信させていただきます。

それでは、お子さまが将来お金に振り回されない大人になれるように、ぜひご家庭で「おこづかい教育」に取り組んでみて下さいね。

唐澤 千恵美

■参考文献

土屋書店：羽田野博子著「お子さんがお金に興味を持った
ら読む本」

PHP研究所：田中貴美子「ちゃんと我慢のできる子に」

文国社：陣内恭子「母と子どものまねーじゅく」

【連絡先】

唐澤 千恵美

おこづかいラボ 運営者

NPO法人マネー・スプラウト公認インストラクター

ファイナンシャルプランナー

(株)アルファコンサルティング所属

〒399-0745 長野県塩尻市大門桔梗町7-10

携帯：090-1887-0440 (お友達追加大歓迎です！)

LINE ID: karasawachiemi <https://line.me/ti/p/5TI3c6YaYP>

mail：fpkarasawa@gmail.com

おこづかいラボHP

<http://oka-san3.com/>



質問などあれば、LINEで気軽にメッセージ送ってOKです。
無料PDFダウンロードして下さったからの相談は随時無料
にてお受けしております。